

団体名	未来希望プロジェクト
事業名	食の未来と交流プロジェクト

## 〈事業概要〉

大船渡市内の少子高齢化や人口減少に伴う課題解決の一環として、在留外国人や地域住民を巻き込んだ交流機会を創出し、地域の活性化を目指しました。

- (1) 交流の場づくり: 異文化交流による定住促進と交流人口の増加。
- (2) シビックプライドの醸成: 地産食材の再発見を通じた住民参加型社会の構築。
- (3) 外国人支援: 日本語学習支援を通じた「住みやすいまち」の実現。
- (4) 周知方法: SNS、チラシ、新聞記事に掲載、およびポスター掲示による広報を実施。
- (5) 実施事業: 「大船渡産食材に江戸前技術を用いた新たな食の体験イベント」ほか

令和7年7月19日(土)実施／参加者21名

## 〈実施効果〉

実施事業により、次のとおり、食を通じた価値の再発見ができました。

### (1) 技術が引き出す食材の魅力

長野県より招聘した講師により、地産の魚介と塩などの調味料を用いて江戸前の「仕事(技術)」で仕上げる実演とトークを実施しました。

中でも銀座の老舗職人から伝授されたコハダは好評で「江戸前の技術は食材を活かし切るための先人の知恵である」という視点は、参加者に強い感銘を与えました。

また、ソムリエ・エクセレンスでありワイナリー運営者でもある講師からみた日本のワイナリーの実際も併せて講授され参加者から共感の声があがっていました。試食を通じた活発な交流は、大船渡の食文化に対する誇り(シビックプライド)を再認識させる大きな成果となりました。

### (2) 潜在的な関心の掘り起こし

開催を予定していた全3回の日本語学習会は諸事情により中止となりましたが、ポスター掲示による周知の結果、窓口へ1件の問い合わせが発生しました。

これは活動への潜在的なニーズが地域に存在することを示す一歩となりました。

## 〈今後の展開〉

### (1) 広報戦略の最適化

学習体験会を開催する予定でしたが、一般参加が0名に留まった点から、広報媒体の選定や周知タイミングに課題が残りました。今後は限られたリソースの中で、より効果的にターゲット層へリーチできる周知手段の精査と戦略的な運用を検討します。

### (2) 継続的な交流機会の創出

本事業で得た教訓を活かし、時期や内容を精査した上で、地域住民と外国人が自然に交流できる場を定着させていきます。

### (3) 地域資源の高度化への寄与

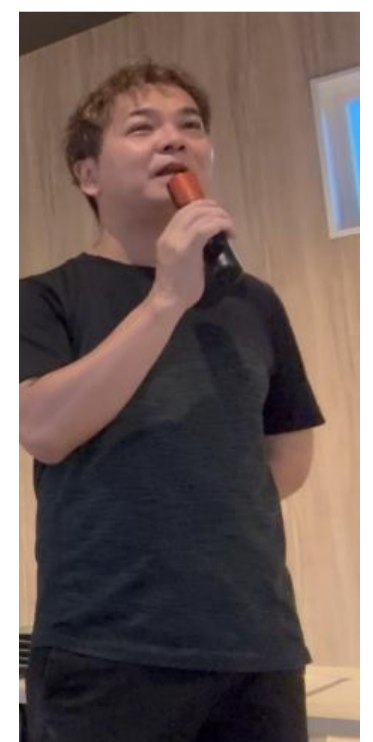
講師から学んだ「食材を活かし切る技術」を、将来的な大船渡の新たな特産品やメニュー開発のヒントとして地域へ還元します。

### (4) 持続可能な運営体制の構築

参加費等で活動費を賄える自立型モデルを目指し、地域に根ざした持続可能な活動体制を模索します。

## 〈市民の皆さんへ一言〉

本事業を通じて、大船渡の豊かな食材が持つ「本当の価値」を、江戸前の伝統技術という新たな視点から再発見することができました。また、日本語学習会への問い合わせなど、地域に眠る潜在的なニーズを実感できたことは大きな一歩です。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。今後も、地域住民と外国人や市外住民が自然に交わり、共に大船渡の未来を語り合える 場づくりを続けてまいります。



令和7年7月19日  
大船渡産食材に江戸前技術を用いた新たな食の体験イベント